

# よこはま プロバス通信

No30 2020年2月発行

http://yokohama1probuss.web.fc2.com/TR3.html  
ユーチューブチャンネル probussyokohama

情報委員会・編集委員

発行所：横浜市金沢区並木3-3-10-204 電話：045-784-6549

## 会長 東野 操



あけましておめでとうございます。

昨年25年間奉仕して来た特養老人ホームでのボランティア活動を終えました。メンバーの年齢も80歳前後、今日まで良く頑張ってきたと思います。

しかし25年間毎月決まった日に活動していましたので生活のリズムがガラリと変わってしまい、今は会社を定年退職した方のような心境になっています。

今年は地球温暖化の為に「北の風物詩」が見られなく、札幌の雪まつり。秩父の氷柱。初氷ナシなど各地で支障をきたしています。オースト

## 新春 ご挨拶



リアの森林火災、人為的な行為によりどんどん自然が破壊されて来ています。悲しいですね、、、

今年成人式を迎えた若者は122万人、将来を担って行く子供達にいい状態でバトンタッチして行ける様に真剣に考えていくべきだと思います。

す。そして世界の祭典、東京オリンピックに夢と平和を託しましょう。

## 幹事 保谷 英雄

昨年総会后新役員に就任、7月の例会より幹事としてスタートし、早くも半分が経過してしまいました。前半は例会次第の同好会活動の日時誤記もあり、担当世話人の方々に迷惑を掛けました。

今年私は72歳の年男で節目の年でもあり、残された半分に気合を入れ、後半は間違いのないよう注意していきますので会員の皆様、変わらぬ、ご支援お願いします。



## 令和2年1月10日 新春賀詞交歓会

### 盛り上がった！参加者全員のユニークなスピーチ

恒例新春賀詞交歓会が令和2年1月10日賑やかに開催された。副会長の新春を寿ぐ謡いで始まり、東野会長の挨拶、山手ロータリークラブの前会長中込清美様から丁寧なお祝いの詞を頂きました。会員全員の一言スピーチ（ホームページの動画参照ください）



中村実顧問



中込前会長

中村先生から新年のご挨拶と年賀状に見る現代の風情のお話を頂き、乾杯の音頭で令和二年のスタートを元気に切りました。



## ■副会長 關 尚記 (尚水流)

新元号初の新春に当たり万葉集から大伴家持の

「新しき年の始めの初春の 今日降る雪の いや重け吉事」を朗詠し、お祝いの言葉といたします。



## 事務局だより

松下尚雄 (事務局長)

★新春例会に、岡部前会長、加藤豊会員、小野寺会員より日本酒他みかん等が差し入れされました。ありがとうございました。

★2020年1月8日東京多摩プロバスクラブの新年例会で森山全日本前幹事が演題「全日本プロバス協議会の

今昔」と題して、現況とこれからの方向を設立時振り返り語った。

## ★山手ロータリークラブ クリスマス例会に参加

2019年12月11日横浜山手ロータリークラブのクリスマス例会がホテルモントレで開催され当プロバスクラブから8名が参加した。

★新会員、ビジターで初参加の長瀬様、小林様を紹介いたします。



長瀬博子様 (青木、松本会員紹介)



小林修平様元東京税関勤務 (佐藤会員紹介)



令和2年1月10日 例会に元気に集い、新たなスタートを切りました



恒例 クリスマス例会  
ブラボー楽団が演奏

〈ブラボー楽団5名のプロフィール〉  
 平山 秀樹 (バリトン) 元二期会準会員。各種音楽祭でソリストとしてハービーハンコック、ウエインショーター、大野俊三氏等と共演。秋田県小坂町観光大使  
 平岡 英夫 (バリトン) 著名な合唱団のソリストとして活躍。  
 小林 千恵子 (バイオリン) 国立音楽大学卒、元東京交響楽団員。現在、フィルハーモニア東京及び(株)ハルモニア代表。オーケストラを始め、室内楽やスタジオミュージシャンとしても活躍。テレビ出演多数。  
 小林 妙子 (バイオリン) 東京音楽大学卒業、ハンガリー国立リスト音楽大学院修了。数々のコンクールで入賞。東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア東京に在籍。  
 勝呂 雅美 (音響) プロの音響技師として多方面で活躍。



小磯会員

2019年12月13日クリスマス例会は小磯会員(横浜交響楽団理事長)の乾杯で始まったクリスマス例会は、平山氏率いるブラボー楽団(5名)の素晴らしい歌声、バイオリン演奏と人間性あふれる心に響くトークで、今までにない楽しい有意義なひと時になりました。

ずっと59歳、  
定年なき鉄人

鈴木 邦彦氏

(1930年生)

鈴木邦彦氏は当年90歳、宮城県生まれ、横浜市在住。そのエネルギー? 秘訣? はどこにあるのか、その生い立ち経歴をたどりながら紹介いたします。

◇

趣味はアイスホッケー、国内外の登山共に今なお現役で練習、試合、登頂に挑む。昨年(2019年)は秀峰白馬岳に20キロのザックを背負い、登頂(写真)。100歳まで行けると確

信した。

これは「未来に強く。前進ストロングエイジ」の挑戦だ。私の年齢だと90-30=60つまり、まだ60歳という気持ちで、何事も挑戦している。「何事にも負けてたまるか!」という自己との戦いでもある。かって、北アルプスで滑落



して1か月の入院を余儀なくされたこともある。しかし、悪戦苦闘して2キロに及ぶ大雪渓を一步一步踏みしめながら、走破して山頂に近づく、その道中にはミヤマキンポウゲなど美しい高山植物が迎えてくれる。

この喜びはやってみた人でないと味わえないと思う。幸いにも私は若い時にその喜びを知り、体を作り上げてきた。

しかし、「もう遅い」ということではない。今がチャンスと決め、どんな些細なことでも今、出来ることから挑戦してみようではありませんか!! (つづく 文責・森山)

環境問題を問う

五輪開幕まで1年を切りました。ここで、長野冬季オリンピックで刻んできた倉嶋康氏の数々の事績を振り返り、いま日本が直面している環境問題を考えてみたいと執筆をお願いしました。(松原)

走れ!! 五輪へ

[NASL(ナッスル)国際環境使節団] 第1幕 ②

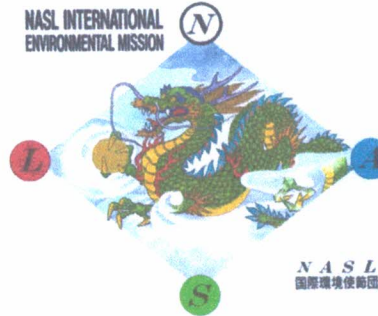
倉嶋 康  
(日本記者クラブ会員)

日本の長野市から米国のソルトレーク市(SLC)まで。地球儀で計ってみると北半球を半まわりする距離です。そんな長い区間を「こどもたちのために幸せで豊かな地球を21世紀へのこそう」と呼びかけた「環境親書」を運んでほしいと頼まれた私は頭を抱えました。

それは距離が長いからだけではありません。環境特使と名付けられているからには、CO2を発生して地球環境を破壊する石油や石炭を使ってはいけません。だから飛行機、自動車、列車、オートバイ、汽船、全部ダメです。人や動物の力か、風や水の流れる力など、自然のエネルギーを使う以外にありません。

そんな原始的冒険の参考になる資料は皆無です。全部を自分で計画しなくてはなりません。世界地図を広げてため息をついている私を見かねて、東京の新聞社にいる長男の望が休みの度に帰省して、相談相手になってくれました。

次第に形が整ってきました。まず区間全体を3つのステージに分けました。第1ステージが日本国



内。第2ステージが太平洋横断。最後の第3ステージがアメリカ国内です。三考四考の末、陸地は自転車、海は帆船で移動することにしました。

これを勝手に「グローバル・トライアスロン」と名付けましたが、一気に3ステージを走破するのはとても無理です。当時65歳だった私の体力のこともありますが、「環境は金にならない」との名(迷)言を最後に電通が手を引いたので、資金獲得のためのスポンサーをする期間が必要なのです。

そこで実行期間にゆとりを持たせました。オリンピックがある1998年に長野の会場を自転車で出発して交通量が比較的少なく距離が短い清水港に出る。翌99年にここから東京港まで使節団の仲間が所有しているヨットで運び、ここで帆船「海王丸」に乗り換えて太平洋を渡る。最後の年の2000年にアメリカ西海岸から砂漠を自転車か馬で走ってSLCに到着する。各行動期間のあいまに10ヵ月ほどの準備期間をとってスポンサー探しに飛び回ろうという寸法です。こうして机上作戦だけは出来上がりました。(つづく)

とおだててくれました。

写真:八王子に住む友人で画家の行近社人さんに作ってもらったNASL国際環境使節団のロゴマーク



島村全日本PC副会長たくさんのりんご有難う!! 忘年会・誕生会・小磯会員励ます会 (2019. 12. 28)



青木元会長の音頭で 小磯会員の恒例の第九演奏会大成功の慰労会、荻原会員(写真左)の誕生お祝いと忘年会を兼ねて関内の「とりろう」で15人が集まり開催されました。これには五所川原プロ

バスクラブの島村全日本プロバス協議会副会長様からたくさんのりんごを頂きみんなでお土産にしました。8月の五所川原開催の全日本プロバス協議会総会への参加を誓い合いました。

## 現在の香港の混乱状態を知るには

うがや まさひろ  
講師・烏賀陽 正弘氏

現在の香港の混乱状態を理解する上でのキーポイントは「一国二制度」と「逃亡犯条例」である。まず、当初この制度は台湾との統一を想定して作られた構想であった。現在はイギリスの植民地であった香港と元ポルトガルの植民地であったマカオに置いて実施されている。

イギリスの植民地であった香港が1997年に中国に返還されるにあたり、50年間は資本主義を採用し、2047年まで社会主義の中国と異なる資本主義システムが継続することが約束された。香港の憲法にあたる基本法には、中国本土では制約されている言論・報道・出版の自由、集会やデモの自由、信仰の自由などが明記されている。一国二制度での制度とは、外交と国防を除く経済制度を意味し、「高度な自治」が認められ



ている。従来の三権分立は保証されたものの、外交と軍事は中央政府の管轄となり、外交部駐香港専員公署と人民解放軍駐香港部隊が設置・派遣された。

(つづく 文責・森山)



市民を巻き込んだ香港混乱

## 略歴 烏賀陽 正弘

京都大学法学部卒業。幼少期をニューヨークと中国で過ごす。東レ(株)に入社後、国際ビジネス業務に従事して広く活躍し、そのために訪問した国は100か国超にのぼる。大手量販店、シアーズ・ローバック社から、優れたビジネスマンに贈る「アワード・オブ・エクセレンス」を受賞。香港に12年間、会社社長を務め、繊維製品の輸出拡売に携わった。海外より帰任後、同社マーケティング開発室長を経て独立し、現在、国際ビジネス・コーディネーター、著述家、翻訳家として活躍中である

## ■ 麻雀同好会

昨年の4月に発足し、毎月第一水曜日に横浜駅西口の東興で「チー」「ポン」やっています。発足時は6名でしたが今は13名もの参加者があり、毎回「勝った」「負けた」で大騒ぎしています。今後は、もっと多くの方が参加できるように開催日を増やすことも考えています。

(影の声:「本当は今までの負けを初心者から取り返そうという魂胆」)では、この次は横浜駅西口の四角いジャングルでお会いしましょう。(神谷世話人)

## ■ 英会話同好会

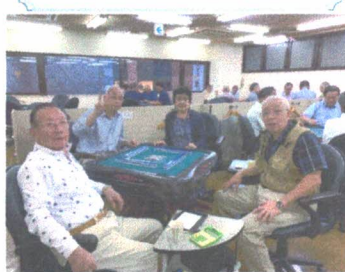
平成27年7月7名で発足した同好会、ダニー山田講師の豊富な人生経験と素敵な英語力に感動し今や会員数24名にも達し教室に入りきれず、2月より県民センターに移動、われわれは年に数回の海外旅行や国内での外国人との出会いにどれだけ役立つか。山田講師に感謝です。

(松下世話人)

## ■ ボーリング同好会

令和2年1月15日(水)ラウンドワン横浜西口店で第53回ボウリング同好会を開催した。午後3時前に参加者4名(関口、富永、樋口、持田)全員が集まり、5階のボウリングフロアに移動して、競技を開始した。1ゲーム目

## 同好会 紹介②



は、スペアを取れた持田がリード、2ゲーム目もスペアを取れた持田が点数を引き離し、2ゲームトータル295点で、優勝した。久しぶりに挑戦した関口氏は1,3,6投がストライクなれど112で終わり 樋口氏曰く久しぶりだからピンが倒れてくれたんじゃないのと冷たいお言葉。終了後、近くの居酒屋で、小野寺さん、宮川さんと合流して懇親を深めた。(持田世話人)



<編集後記> ▼誕生日を迎えるたびに思い出すことがある。▼横浜プロバスの毎月の例会でも、誕生月の方に当会からささやかな誕生日を差し上げることが恒例となっている。▼ちなみに、私が家は昔から子供には「誕生日は母に感謝する日。」と教えている▼徳川光圀(水戸黄門)は、自分の誕生日には最も質素な食事をしたという。なぜか。吉川英治が『梅里先生行状記』に描いている。家臣が誕生日の膳を並べた時のこと。光圀は「白粥と梅干ひとつでよい」と料理を下げさせ、こう言う。「産褥の母のすがたを忘れぬのが何よりの誕生日」。つまり誕生日は、自分を産むために母が腹を痛め苦しんだ日。“せめて質素な食事感謝をささげたい”。光圀の、親を敬う心は深かった。▼人生の羅針盤は、日々の“当たり前”の中に埋もれている。(情報委員長・松原孝明)